

首都大学東京 大学教育センター

年報（全学共通教育部門）

平成27年度

目次

大学教育センターに専属する教員の平成 27 年度における活動.....	2
担当授業	3
各教員の教育研究実績の概要	4
研究実績	6

『首都大学東京大学教育センター年報（全学共通教育部門）（平成 27 年度）』には大学教育センターの自己点検・評価活動の一環として、平成 27 年度に他の学部・系ないし研究科等の兼務がなく大学教育センターに専属していた教員のうち、平成 28 年 4 月 1 日に大学教育センターに在籍している高野 一良 教授、永井 正洋 教授、松田 岳士 教授、林祐司 准教授、柚原 一郎 准教授、伏木田稚子 助教の 5 名の教員の平成 27 年度における教育・研究の状況についてまとめた。

他部局と兼担している教員の教育・研究の状況についてはその部局で発刊している年報を参照されたい。

—平成 28 年 12 月 公開—

大学教育センターに専属する教員の平成 27 年度における活動

担当授業

高野 一良 教授

実践英語 Ia 実践英語 Ib 実践英語 IIa 実践英語 IIb

永井 正洋 教授

情報基礎A 情報リテラシー実践 I 情報リテラシー実践 I A 情報リテラシー実践 IIA
情報リテラシー実践 IIB 情報科教育法 II

松田 岳士 教授

基礎ゼミナール、大学生の学びをデザインする

林 祐司 准教授

総合ゼミナール キャリア形成 キャリア形成演習 現場体験型インターンシップ

柚原 一郎 准教授

英語 I 英語 I 実践英語 Ia 実践英語 Ib 実践英語 IIa 実践英語 IIb

伏木田稚子 助教

情報リテラシー実践 I , 情報リテラシー実践 IA 情報科教育法 I 情報リテラシー実践
IIA

各教員の教育研究実績の概要

高野 一良 教授

アメリカン・フロンティア表象史

- ・平成 25 年に出版した『アメリカン・フロンティアの原風景——西部劇・先住民・奴隷制・科学・宗教』（単著、風濤社）で取り上げたアメリカン・インディアンの伝記『ブラック・ホークの自伝』（単著、風濤社、平成 28 年刊行予定）を翻訳し、出版する準備を進めた。

永井 正洋 教授

高等教育における情報教育の開発と評価

- ・概ね学生は意欲的に授業に取り組み、教員の説明や対応を評価すると共に、情報リテラシーが身についたと認識し、満足していたことが分かった。数年に渡りこの傾向は見られ、情報科目のカリキュラムは、比較的、継続かつ安定して学習者に評価・支持されていると考えられる。反面、課題としては、授業外での学習時間の不足が示された。これに関しては、改善に向けて、自学用アニメーション教材の開発や反転授業の取り組みを行っており、若干の改善が見られている。

松田 岳士 教授

教育工学および IR

- ・IR 研究の分野では、先進的 IR システム開発に関するものと、データ分析・可視化手法を探索するものがある。前者として、前年度に試作版を開発した学生への教学 IR 情報提示システムに追加機能を付加し、学生の評価を受けた。また、後者として、シラバスの分類方法やダッシュボードの要件を検討した。自己調整学習の支援としては、学生の受講計画立案を支援し、自律性に依拠して支援を軽減する「セルフ・レギュレータ」の開発に取り掛かった。

林 祐司 准教授

キャリア形成

- ・口頭発表では、授業で行われる形成的評価のあり方を 4 種類に分類した上で、形成適評価がどのように学生たちの学習効果に影響するかという点を解明するべく、2 大学から学生データを収集し、分析を行った。また、学生がコーオプ教育に参加することのエンプロイアビリティへの効果を検証すべくデータを取得して反実仮想を想定した分析を開始した。早期の査読雑誌への掲載を目指す。

柚原 一郎 准教授

言語学、英語学、英語教育

- ・ 意味に関する現象を形式に関する現象として議論したため、本来進むべき方向と異なった方向に進んでしまった現代言語学の現状に警鐘を成らし、是正を促すことを目的とする研究を進めた。
- ・ 本学における実践英語科目、未修言語科目教育の現状について分析するとともに、今後の外国語科目教育の改善を目指して検討を重ねた。

伏木田稚子 助教

学習環境が大学生の学びに与える影響の研究

- ・ 学習環境が大学生の学びに与える心理的な影響を、質問紙調査、インタビュー調査、参与観察を通じて実証的に研究している。平成 27 年度は特に、高次能力の習得を目指す反転授業と初年次教育としてのレポートライティングの実践について検討し、学生の個人での取り組みを重視しつつ、新たな視点の獲得と適用を促すことの重要性が示された。同時に、次年度以降の改善点（他者との相互作用を通じた内省の支援）が明らかになった。

研究実績

学会発表

- ・永井正洋 “モバイル端末を用いた避難訓練支援システムの開発”，畠山久，永井正洋，室田真男(共著)，日本教育工学会全国大会第 31 回講演論文集 CD-ROM, 225-226, 2015.
- ・永井正洋 “算数科における予習動画教材を用いたアクティブ・ラーニングの効果の検証”，松波紀幸，永井正洋(共著)，日本教育工学会全国大会第 31 回講演論文集 CD-ROM, 487-488, 2015.
- ・永井正洋 “WS03: 地域・学習者に応じた ICT 利用の防災学習を考える”，永井正洋，池尻良平，倉田和己，畠山久，室田真男，日本教育工学会第 31 回全国大会ワークショップ，2015.
- ・永井正洋 “学術情報基盤センターと本学 e-learning のこれまで”，永井正洋，首都大学東京 kibaco シンポジウム / Ja Sakai カンファレンス 2016, 2016.
- ・永井正洋 “シナリオベースのモバイル学習システムを用いた野外における避難訓練学習の実践とその評価”，畠山久，永井正洋，柴山愛，室田真男(共著)，日本教育工学会研究報告集 JSET16-1, 387-392, 2016.
- ・松田岳士 ブレンディッド学習における自己調整学習の実践支援 —学習計画・DST・受講行動—、教育システム情報学会第 40 回全国大会、2015 年 9 月
- ・松田岳士 自己調整学習を支援するセルフ・レギュレータの開発へ向けて —要件と活用法の検討—、日本教育工学会第 31 回全国大会、2015 年 9 月
- ・松田岳士 教学データと SDLRS を用いた科目選択支援システムの開発、日本教育工学会研究会、2015 年 12 月
- ・松田岳士 シラバス分析による授業形態分類方法の開発、日本教育工学会研究会、2016 年 3 月
- ・松田岳士 Providing What Students Need to Know: A Student Dashboard System, Association for Institutional Research Annual Forum 2016、2016 年 6 月（審査あり、

採録決定済み)

- ・ 林 祐司 Yuki Watanabe, Takeshi Kushimoto, Yuji Hayashi and Shinji Tateishi (2016, January) "Paths from Formative Assessments to Learning Outcomes: A Between-course Approach Study of Undergraduate Freshmen in Two Japanese Universities", 14th Hawaii International Conference on Education: HICE, 審査あり。
- ・ 伏木田稚子, 大浦弘樹, 山内祐平 (2015) 高次能力学習型の反転授業における知識活用に関する研究. 日本教育工学会第 31 回全国大会: 電気通信大学, 2015.09.21 - 2015.09.23
- ・ Wakako Fushikida (2016, January) "Perceptions of Inquiry-Based Learning Community: What Do Students Learn Outside of Undergraduate Seminars", 14th Hawaii International Conference on Education: HICE, 審査あり
- ・ 伏木田稚子, 安齋勇樹 (2016) 問いの生成を起点とする論証型レポート作成の支援—初年次教育での実践を通じて—. 第 22 回大学教育研究フォーラム: 京都大学, 2016.03.17 - 2016.03.18

論文発表又は著書発行

- ・ 松田岳士 The Relationship among Self-Regulated Learning, Procrastination, and Learning Behaviors in Blended Learning Environment, in Proceedings of 12th International Conference Cognition and Exploratory Learning in Digital Age 2015, 2015年10月
- ・ 松田岳士 大学授業改善とインストラクショナルデザイン (第2部導入、第3部導入、第7章、第8章、第10章、あとがき担当)、松田岳士・根本淳子・鈴木克明 (編著)、ミネルヴァ書房、2016 (近刊)
- ・ 松田岳士 教育工学研究による高等教育の改善 (6.2. 「データに基づいた教育改善 IR」担当)、村上正行・田口真奈 (編著)、ミネルヴァ書房、2016 (近刊)
- ・ 松田岳士 大学生のための文章表現ワークブック 第2版 (第2章、9章、コラム担当)、専修大学ネットワーク情報学部リテラシー演習開発チーム (著)、富永敦子 (編著)、専修大学出版局、2016年3月
- ・ 林祐司 (2015) 「新規大卒採用活動における構造化面接のもとでの面接者の評価と応募者の自己評価」『日本労務学会誌』16(1)、査読あり。
- ・ 伏木田稚子 初年次を対象としたアカデミック・ライティング教育. 丸善雄松堂 教育機関向け事業 大学の取り組み事例. <http://yushodo.maruzen.co.jp/edu/design/case07.html>

科学研究費補助金

- ・永井正洋 平成 26, 27, 28 年度科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究, 課題番号 26560126, 小学校での算数学習における初等教育版 MOOC を活用した反転授業の実践と評価, 研究代表者
- ・永井正洋 平成 26, 27, 28 年度科学研究費補助金, 基盤研究(B), 課題番号 30200687, 高等教育機関におけるFD・SDを目的としたOR支援型IRシステムの開発, 研究分担者
- ・永井正洋 平成 27, 28, 29 年度科学研究費補助金, 基盤研究(B), 課題番号 15H02933, モバイル端末を利用した野外防災学習支援システムの開発と評価, 研究代表者
- ・松田岳士 研究代表者 基盤研究 (B), 課題番号 25282056, 学生の自己管理学習を支援する教学IR情報提示システムの開発と評価, 研究期間:平成 25 年度~27 年度
- ・松田岳士 研究分担者 基盤研究 (B), 課題番号 15H02935, 自己調整学習を支援するツール「セルフレギュレータ」の開発と効果的運用に関する研究, 研究期間:平成 27 年度~29 年度
- ・松田岳士 研究分担者 基盤研究 (B), 課題番号 30200687, 高等教育機関におけるFD・SDを目的としたOR支援型IRシステムの開発, 研究期間:平成 26 年度~28 年度
- ・松田岳士 研究分担者 挑戦的萌芽研究, 課題番号 15K12424, 共通教育情報メタデータによるビッグデータの論理的統合と利活用システムの構築, 研究期間:平成 27 年度~28 年度
- ・林 祐司 研究分担者 基盤研究 (B):高等教育機関におけるFD・SDを目的としたOR支援型IRシステムの開発 期間:平成 26 年度~28 年度, 研究経費(3 年度分総額 単位千円):7,400
- ・伏木田稚子 日本学術振興会 2014 年度-2015 年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援) 研究課題:ゼミナールの授業外での活動における学びの研究-構成・経験・成果に着目して-(課題番号 26885022 直接経費総額 1,950 千円) 研究代表者

国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況

- ・松田岳士 自己調整学習の支援に関する研究に関して、2015年度に学研グループとの共同研究を協議し、2016年度より共同研究を受け入れている

受賞等

- ・ 松田岳士 12th International Conference Cognition and Exploratory Learning in Digital Age 2015 (2015年10月開催) において Best Paper Award 受賞

その他

- ・永井正洋 平成 27 年度 千葉県立天羽高等学校「天高防災デー」及び「防災学習成果発表会」共催者
- ・松田岳士 特許の出願 発明者・出願人：松田岳士、宮川裕之、加藤浩、合田美子、山田政寛、齋藤裕 「自己調整学習システム、その動作方法およびプログラム、ならびに自己調整学習支援装置、その動作方法およびプログラム」出願番号：特願 2015-113549 (2015 年 6 月 4 日出願)
- ・林 祐司 「(書評) 松下佳代ほか編著 (2015) 『ディープ・アクティブラーニング—大学授業を深化させるために』 勁草書房」大学基準協会『じゅあ』No. 55, 2015 年 10 月
- ・柚原一郎 第 1 回脳発達フォーラム(2016/03)に登壇
- ・伏木田稚子 丸善雄松堂株式会社から NPO 法人 Educe Technologies に委託された教育・研究プロジェクトのコーディネーターを担当